

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を「むすび」ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

2020年度いなぎめぐみの里山 委員交流デーを開催

里山の保全の仕組みを知り、さまざまな体験ができる「いなぎめぐみの里山」で、エリアを越えた委員同士の交流を図る目的で開催される委員交流デー。今年度は、コロナ感染症の影響で11月20日のみの開催となりましたが、晴れ渡った秋空のなかでの参加者の様子をお伝えします。



深まる秋を感じながら

いなぎめぐみの里山は、パルシステム東京が掲げる「農と緑の創生」をキーワードに、地域社会との交流も含め、組合員が参加できる「場」として2004年に設置されました。野菜の種まきや植え付から収穫、里山の素材を利用したリースや門松づくりなど、様々な企画を通して自然と触れ合う機会を提供しています。

交流デーには、8委員会27名が参加し、集合場所の稲城駅前から、里山の裏手にあたる南山東部地区を経由して里山を目指しました。

小春日和の穏やかな日差しの中、落ち葉を踏みしめ、秋を感じさせる草花や宅地開発が進む風景を眺めつつ40分ほどで里山に到着。前方のステージで、各委員会の自慢、パルシステムのおすすめ商品、コロナ禍の日常をどう過ごしたかを伝えあいました。その後、パルシステム東京の業務委託先「NPO法人 いなぎ里山グリーンワーク」の小林さんから、いなぎめぐみの里山の成り立ちや、なぜ里山を再生・保全するのかの説明を聞きました。



畑に残ったさつまいもを掘り出す作業をお手伝い。
畝2つ分のさつまいもを手やシャベルで掘り出します。塊を見つけ、周囲の土をよけて引き抜きますが、深く埋まっ^{うね}ていて、長い根っこも曲者で、悪戦苦闘しながら30分ほどで作業完了！「子どもの遠足でやって以来で、すごく楽しかった！」「10数年ぶりの里山。作物が育っているのを見ることができて感無量です」「自然と触れ合いリフレッシュできました」「久しぶりに夢中になりました」「土に触れ作物を育てる場があるのは素晴らしいと思う。稲城の人にとっても里山が残ることの意義は大きいですね」などの声が聞かれ、貴重な時間を共有できた一日になりました。

さつまいもを掘り出しました

里山について学んだ後は、お待ちかねの援農です。

はるか遠くに副都心のビル群を臨み、すぐそばまで宅地開発が進みます



「里山は、人の手が入った二次林です。周囲にある緑一色の森林は、手が入っていないということです」と小林さん

掘り出すまでがひと苦勞。途中で折れないように注意深く、ていねいに掘り出していきます





委員会活動を 紹介します！

様々な企画に定員を上回る応募が寄せられ、企画への期待が大きいことが感じられます。

12月中に開催された企画の一部ではありますが紹介します。

自然派おそうじと こだわりの日本製掃除用品

12月10日

くらしの本棚委員会

年末に向けて大掃除の助けになるように、「アルカリウォッシュ」と「クエン酸」の上手な使い方と、ちょっと気になる掃除用品について、メーカーの榎丸藤さんから話を聞きました。

ポットについて水垢や食洗器の洗浄、洗濯の仕上げにクエン酸を、洗濯用液体石けんの洗浄力アップや血液汚れにアルカリウォッシュを使うことがわかりました。

また、自然素材のフローリングシートやトイレのノズル掃除用品、組合員の声で改良を重ねた排水口ブラシなど、手に取って確認できました。

「プラスチック製品が問題になっているので、自然素材の商品を増やして」等、声があがり、関心の高さがうかがえました

オシャレなしめ縄飾り講習会

12月11日

昭島委員会

新年に、歳神様を迎えるのにふさわしい場所だと示すために飾るしめ縄飾り。コロナ禍のなか、手作りを楽しみながら、明るい気持ちで新年をと企画しました。

講師は人材バンクの矢口さん。ドライ用フラワーフォームを接着した丸型のしめ縄に稲穂もアレンジされています。その土台に、あじさいやミモザ、エリアンサスなどのプリザーブドやドライのフラワーと木の皮で作ったソーラーローズを差し込んでいきます。「ふんわりと仕上げたいのでワイヤーは長めにカットして」「花の向きで印象が変わります」と講師がアドバイス。同じ花材なのに、個性が光る飾りに仕上がりました。

「この時期の企画開催は悩みましたが、委員の経験値が上がって、今後の糧になると実感しました。参加者が笑顔で帰ってくれたのが何よりです！」と委員長

調理実習では伝えきれない 調理の話

スロークッキング委員会

ふだんの調理実習時には話きれない、知っているためになることを伝える講座をと企画しました。

通常の調理企画でも講師を務める委員長が、まずは参加者にどんなことが知りたいかをアンケート。レジユメに沿って知りたかったことを盛り込んでいきます。パルシステムの野菜を使い切る方法として「ベジブロス」の作り方のコツを。上手くないとの声が多かった「ぬか床」については、はじめの1～2年はよくかき混ぜることが大事と解説します。白菜漬けやレモン塩作りのポイント、余ったときの利用法などの話に「とてもわかりやすく参考になった」「ぜひ続編を！」と大好評でした。

参加者からの質問に答える講師とのやり取りを、隣で図解する委員の絵がわかりやす